

## あ と が き

- ・ 「仕事」座標から、ふつうの時間軸に戻ると、「あれっ、もうこんな日かア」と思うときことがあります。暑かった夏もいつの間にか遠いかなたです。
- ・ 秋の学会も終わってひと休みしておられるでしょうか。それとも11月の核データ研究会に向けて、もうひとふんばりとばかり張り切っておられるでしょうか。
- ・ いささか旧聞ですが、昨1989年6月西ドイツ（この名称ももう過去のものです）の Braunschweig で放射性核種度量衡国際諮問委員会の崩壊データに関するシンポジウムが開かれました。本ニュースでも出席した方をお願いして、この会議の様子を書いていただくつもりでしたが実現できず、読者の皆様に申し訳なく思っています。
- ・ 最近そのプロシーディングを掲載した Nuclear Instruments and Methods 誌が到着しました。既にお読みになった方もいらっしゃるかも知れませんが、念のために番号を書き置きます。Nucl. Instr. Meth. A286, 357 - 622 (1990)。
- ・ 半減期30年といえば、セシウム 137 のそれですが、上記シンポジウムではその値をめぐって二つの論文が出されました。一つは電離箱を使った最新の測定結果、もう一つは評価値です。それぞれ  $10967.8 \pm 4.5$  d と  $11050 \pm 4$  d。どちらも、人口にかいしゃしている「年」を使わず、「日」としたところが面白いところです。時間の S I 単位はもちろん「秒」です。分、時、日までは S I 単位と併用できるので、こうなったのでしょう。せめて 0.9476 TS, 0.9547 TS とされなかったことを喜ぶべきかも知れません。
- ・ ところで、あなたは「年」で表してある半減期などを「日」に換算するとき、1年を何日にしますか？ 365.2422 d (太陽年), 365.2564 d (恒星年), 365.2596 d (近点年), 365.25 d (平均年)。上記論文では、365.2422 d を使っています。ま、それはともかく、このシンポジウムでは 10987, 11050 のどちらに軍配をあげたのか、行司あずかりか、プロシーディングでは、ナマの声が読み取れないのが残念です。 (喜多尾)

### 編集委員

中川庸雄 (委員長, 原研), 浅見哲夫 (NEDAC), 井頭政之 (東工大),  
喜多尾憲助 (放医研), 高野秀機 (原研), 中島豊 (原研), 片倉純一 (原研)